

※キャピリアTB

従来、結核菌と非結核性抗酸菌を鑑別同定するためには、ナイアシンテストが行なわれてきたが、これをするには十分量の菌が必要であり、結果が得られるまで4～8週かかった。

キャピリアTBは、結核菌群が特異的に産生するMPB64をターゲットとする免疫クロマトグラフィー法である。

MPB64 (Mycobacterial protein fraction from BCG of Rm 0.64 in electrophoresis)は、結核菌群の培養において菌体外に分泌されるタンパク質である。

非結核性抗酸菌では産生が認められず、結核菌群及びBCGのいくつかに特異的な分泌タンパク質であると報告されている。

キャピリアTBの特徴

1. 核酸プローブによる検出法に匹敵する感度と特異性を備えている。
2. 特別な装置を必要としない。
3. 操作が極めて簡単であり、習熟を必要としない。
4. 迅速(15分)に結果が得られる。
5. ナイアシンテストでは、非結核性抗酸菌が混在する培養物からは結核菌群を検出できないが、これは検出可能。



(大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当 平成27年11月18日作成)